

2023年度

国立感染症研究所 感染症市民公開講座(シラバス)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---|-----|-----------|-----------------------|-----|------|----|--------------------------|----------------------------|--------------|------------------------|
| 講義方法 | Zoom Webinarによるオンライン | 科目名 | 感染研市民公開講座 | | | | 副題 | 知らなかった、感染症の「へー、そうだったんだ！」 | | | |
| 連携機関名 | 国立感染症研究所 | 水準 | 中級 | 教室定員 (リアルタイムオンライン) | 500 | 配信定員 | なし | 講義日時 | 火曜日 18:30～20:00 (隔週で開催) | 拠点 (開講機関) | 国立感染症研究所 (東京都新宿区戸山) |
| 科目概要 | 感染症に関して、普段なかなか知ることができない「へー、そうなんだ」的な知識をお伝えします。また、感染症に立ち向かうために、感染症研究の専門機関、特に国立感染症研究所が果たしている役割についても紹介します。 高校生以上が理解できる内容としますが、参加の年齢制限は設けません。講義当日にリアルタイムで参加できない方は、約2週間の振り返り視聴をご覧くださいませ。 | | | | | | | | | | |

| 科目構成 | No. | 講義 | 講義概要(講師より) | 講義日 | 開講場所 | 事務局 | 講師 | 所属 |
|------|-----|---|--|------------|---|--|--------|--------------------------------|
| 前期 | 1 | RNAウイルスの変異と新興再興感染症:世界感染拡大のメカニズムと備え | 近年、新たな感染症(新興感染症)の発生が相次ぎ、その脅威がこれまでになく高まっています。新興感染症の大半は、RNAウイルスと総称される一群の変異しやすいウイルスにより生じます。本講座では、まずウイルスが生物進化と地球生態系に果たす役割を紹介し、次いでRNAウイルスによる新興感染症の発生と感染拡大のメカニズムを概説します。最後に私たちの研究を紹介し、新興感染症への備えについて皆様と一緒に考えたいと思います。 | 2023/08/29 | Zoom Webinarによるオンライン形式(事務局:国立感染症研究所 戸山庁舎) | 森 修一 佐藤 裕徳 井上 智 藤本 嗣人 加納 和彦 山本明範 小林 望 総務部調整課 葛西 真治 | 佐藤 裕徳 | 国立感染症研究所 病原体ゲノム研究センター・主任研究官 |
| | 2 | 新たな脅威となりうる性感染症:梅毒、エムボックス(旧サル痘)、性器クラミジア感染症、淋菌感染症を中心に | 性は皆様の生活と切り離すことのできないものであり、性感染症も実体験やメディア報道を通じて、身近に触れる機会があると思います。今、国内では様々な性感染症が増加したり、新たに報告されてきています。本講義では、性感染症の歴史も振り返りつつ、近年の性感染症の発生動向やその背景をご紹介します。 | 2023/09/12 | | | 山岸 拓也 | 国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター・室長 |
| | 3 | ピロリ菌とその類縁菌:ピロリ菌検査では検出されないピロリ菌類縁菌に関する最新研究 | ピロリ菌は世界人口の半分以上が感染している胃の病原細菌です。日本ではピロリ菌の検査や除菌治療が広く普及しており、皆様の中にも一度はピロリ菌検査を受けたことがある方が多いのではないかと思います。一方、ピロリ菌感染診断法では検出されないピロリ菌の類縁菌が胃の病気を引き起こすことがわかっています。ピロリ菌とその類縁菌について、最新の研究成果をご紹介します。 | 2023/09/26 | | | 林原 絵美子 | 国立感染症研究所 細菌第二部・室長 |
| | 4 | 知っておきたい真菌が起こす病気 | 病原体の中には真菌という生物がいます。真菌は太古の昔から人の生活にとって有益な働きをしてきたと信じられており、日本人も味噌や酒造りにおいて、例えばアスペルギルス属という真菌の恩恵を受けています。しかし一方で、アスペルギルス属真菌による病気を落とすこともあります。なぜ真菌は良い顔と悪い顔を持っているのか一緒に考えましょう。 | 2023/10/10 | | | 宮崎 義継 | 国立感染症研究所 ハンセン病研究センター長・真菌部長 |
| | 5 | ポリオウイルス:世界的根絶と基礎研究 | およそ100年前に小児麻痺(ポリオ)を引き起こすウイルスとして発見されて以来、ポリオウイルスとその研究は世の中に大きな影響を与えてきました。今回は、現在進められている世界的な根絶計画および関連する研究についてご紹介します。 | 2023/10/24 | | | 有田 峰太郎 | 国立感染症研究所 ウイルス第二部・室長 |
| 後期 | 1 | ようこそ抗酸菌の世界へ:目立たないけど、しぶとい奴ら | 「結核」は有名ですが、「抗酸菌」と聞いてもピンとこない方がほとんどかもしれません。実は、結核は膨大な種類の抗酸菌のうちのごく一部の菌種を指す言葉です。近年、「結核ではない抗酸菌の仲間 ～非結核性抗酸菌～」による感染症が国内で急増しています。あまり聞き慣れないですが、実は私たちの生活の身近な場面にひっそり潜んでいる抗酸菌たちについてご紹介します。 | 2023/12/26 | 深野 華子 | 国立感染症研究所 感染制御部・主任研究官 | | |
| | 2 | シン・感染症発生!巨災対、アクティベーションします。 | 感染症の危機管理とは何か。地味に忙しい危機管理の舞台裏をご紹介します、社会に求められる感染症危機への備えを考えてみます。 | 2024/01/09 | 齋藤 智也 | 国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター・センター長 | | |
| | 3 | これだけは知っておきたい「病原性」:高病原性ウイルスの理(ことわり) | 「新型コロナウイルスのオミクロン株では病原性が弱まった」、「高病原性鳥インフルエンザ」と、ウイルスの病気を起こす能力を示す言葉として、耳にすることが多くなったウイルスの「病原性」。これだけは押さえておきたいポイントや、ヒトに致死率の高い出血熱を起こすエボラウイルスなどの、いわゆる「高病原性ウイルス」は、何故、高病原性なのかについて解説・紹介をします。 | 2024/01/23 | 海老原 秀喜 | 国立感染症研究所 ウイルス第一部・部長 | | |
| | 4 | C型肝炎研究のブレイクスルー:こうして肝炎ウイルスの培養は可能になった | C型肝炎ウイルス(HCV)が発見されたのは1989年でしたが、2000年代に入っても治療薬の研究はなかなか進みませんでした。あるブレイクスルーによってHCVの培養系が確立されると、この分野の研究が急速に進み、抗ウイルス薬の開発も進展しました。本講座では、どのようにしてHCVの培養系が確立され、その後の研究にどう影響を及ぼしたのか、研究の中心に身を置いていた講師がその核心に迫ります。 | 2024/02/06 | 脇田 隆宇 | 国立感染症研究所 所長 | | |
| | 5 | 是非注目してもらいたい感染症媒介昆虫などベスト10:蚊やマダニやその他諸々 | 様々な感染症の中には、蚊やマダニといった節足動物(衛生害虫)によって媒介されるものが少なくありません。マラリア、デング熱、SFTSや日本紅斑熱など。コロナ禍後の人流増加や気候変動によっても状況は変化してきています。本講座では、これらの病気を媒介する衛生害虫の生態写真とともにランキング形式でご紹介します。 | 2024/02/20 | 葛西 真治 | 国立感染症研究所 昆虫医学部・部長 | | |